

305 代議士招待会

〔『法学新報』第22卷4（252）号 明治45年4月1日〕

○代議士招待会 第二十八回議會も漸く終期に近づきたるを以て中央大学に於ては去月十二日其出身代議士諸氏の招待会を同倶楽部に開催したり当日の来賓は花井卓蔵、岡田泰蔵、加瀬禧逸、中村啓次郎、卜部喜太郎、東武、斉藤二郎、阪本彌一郎、

佐野春五、柵瀬軍之佐、木下謙次郎、森肇の代議士諸氏及び岡野法制局長官、田中隆三氏、太田資時氏、焔朝中の永滝総領事、出京中の弁護士八木橋栄吉氏、同小林勝民氏等にして主人側にては奥田理事、石山彌平氏、山田喜之助氏、江木衷氏、三宅碩夫氏、佐藤幹事等出席し午後六時一同著席宴酣にして奥田理事一場の挨拶を為し阪本代議士は来賓を代表して謝辞を述べ次て奥田理事の要求に依り江木博士は過刻在独逸の友人よりの来翰を接手したる感想を一言すへしとの冒頭にて独逸国体論より我國体に論及し我邦近時思潮の誤謬を指摘したる博士一流の演説あり例に依り奇警満座を傾聴せしむ夫れより雑談に耽り飲を罄しくして散会を告げたるは十二時頃なりし